夢占

楠山正雄

青空文庫

一

むかし、摂津国の刀我野という所に、一匹の牡鹿が住んでいました。この牡鹿には二匹仲のいい牝鹿があって、一匹の牝鹿は摂津国の夢野に住んでいました。もう一匹の牝鹿は、海を一つへだてた淡路国の野島に住んでいました。牡鹿はこの二匹の牝鹿の間を始終行ったり来たりしていました。

けれども牡鹿は摂津の牝鹿よりも、淡路の牝鹿の方を、よけい好いていました。そしていつも淡路の方へ行って遊んでいることが多いので、夢野の牝鹿はさびしがって、淡路の牝鹿をうらんでいました。

二

ある日めずらしく牡鹿は夢野の牝鹿の所へ来て、一日遊び暮らしていました。そしてそのあくる朝帰ろうとする時、ふと悲しそうな、心配そうな目をして、ため息を一つつきました。牝鹿はふしぎに思って、

「あなた、どうかなさいましたか。大そう顔色が悪いようですね。」

とたずねました。

牡鹿は、

「なあに何でもないよ。」

といって、強く首を振りました。

「いいえ、ため息をおつきになったりなんかして、きっと何か御心配なことがあるのでしょう。わけを話して下さいまし。」

と牝鹿がしつっこくせめました。そこで牡鹿もしかたなしに、

「じつはゆうべ、いやな夢を見てね。」

といいました。

「それはどんな夢。」

「何でもわたしが野の中を歩いていると、いつの間にか頭の上に草が生えて、背中には雪が積もった。どうしたのかと思って、気持ちが悪いから、雪を払おうとすると、夢が覚めた。いったい何の知らせだろうか。気になってしかたがない。」

といいました。

すると牝鹿は、ふと思いついて、これはちょうどいい折だから、こういう時に牡鹿をおどかして、もうこののち海を渡って淡路へ行くことを、思い止まらせてやろうと考えて、でたらめな夢占をたてました。それは、頭に草が生えたとみたのは、かりゅうどの矢が首に当たる知らせで、背中に雪の積もったのは、殺されて塩漬けにされる知らせだというのです。

「だから今日は淡路へ渡るのは止して、ゆっくりここで遊んでおいでなさい。」

と牝鹿はいいました。

「海を渡ればきっと途中でかりゅうどに射られて、殺されるかも知れません。」

そう聞いて、牡鹿はこわくなりました。どうしようかと思って、とうとうその日は一日ぐずぐず暮らしていましたが、日が暮れかかると、どうしてもがまんができなくなりました。もうなんでも野島へ渡らずにはいられなくなりました。そこで夢野の牝鹿の止めるの

もきかずに、とうとう出かけて行きました。

　するとまったく占いのとおり、海を渡る途中かりゅうどに見つかって、牡鹿は首を射られて殺されました。そしてそのなきがらは、雪のような塩の中に詰められて、人に食べられてしまいました。

　ですから、うっかりじょうだんに占いなどを立てると、それがほんとうになって、とんだ災難をうけることがあるものです。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社
1983（昭和58）年4月10日第1刷発行
入力：鈴木厚司
校正：大久保ゆう
2003年9月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夢占

楠山正雄

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/